東京 歴史ウォーキング

江戸の坂道散策

寮の坂（世田谷区）

山野 勝 Yamano Masaru
坂道研究家

1943年、広島県生まれ。早稲田大学政経学部新聞学科卒業。報知新聞社を経て講談社に入社。「ヤングマガジン」編集長、第3編集局長、取締役、常務取締役を務めた。この十数年、東京の坂道を積極的に歩き、エッセイや講演などで坂道ブームの火付け役に。『タモリのTOKYO坂道美学入門』（講談社）に企画参加。著書に『江戸の坂――東京・歴史散歩ガイド』（朝日新聞社）がある。

世田谷区の尾山台一丁目10と同二丁目11の間に、大胆に湾曲しながら、丸子川（六郷用水）の八幡橋に向かって下る坂がある。名前を「寮（りょう）の坂」という。堂々とした大坂で、石垣と樹林に包まれた姿が美しい。

坂の由来は、今は坂下の西に移転している伝乗寺にかかわっている。伝乗寺は往昔、坂の台地上の東にあって、本堂と学寮が建ち並んでいた。学寮とは僧侶たちが修業をする学問所である。その学寮にちなんで、地元の人は「寮の坂」と呼んだのだ。

この坂道は古い歴史を持っている。南に流れる多摩川は幾度も流路を変えているが、室町時代には坂下あたりまで流れ込んでいた。東側にある田園調布雙葉学園の中学校と高等学校のある低地は、籠谷戸（ろうやと）と呼ばれる入江だった。

一方、東急大井町線・九品仏（くほんぶつ）駅の北に、九品仏で名高い浄真寺がある。ここにはかつて、世田谷城（城主は吉良頼康）の支城の奥沢城があった。城主の大平出羽守は、多摩川の上流から武器や兵糧を運び、籠谷戸で陸上げ、「寮の坂」を通って奥沢城へ荷物を運び入れていたのだという。

江戸時代に入ると、この辺り一帯は幕府の直轄領（天領）となった。伝乗寺が川崎・泉沢寺と奥沢・浄真寺の中間に位置することから、幕府の軍事拠点としての役割を担い、「寮の坂」は軍用道路として兵馬の往来が激しかったという。

また、この坂の西側には、一〇六二年、「前九年の役」で奥州に出兵した源頼義の勧請と伝える宇佐神社があり、境内に八幡塚古墳がある。

坂下にある伝乗寺。

コラム坂 一服茶屋

新宿区新宿七丁目11と12の間に「久左衛門坂」という急坂がある。この坂は、徳川家康の江戸入府以前からここに居住していた、大窪村の名主・島田久左衛門が開いた。

また、同区市谷左内町に「左内坂」という坂がある。草創名主・島田左内が開設した坂である。姓名からもわかるように、二人は兄弟なのだ。兄・久左衛門氏の子孫は、今でも近くに住まわれているから驚きだ。

寮の坂アクセス▶東急大井町線・九品仏駅を出て右折、環状八号線で右折。「尾山台一丁目」の信号で左折すると坂上へ。徒歩12分。

【お詫びと訂正】前号（第47号／2010年8月発行）の記事表題が「浄瑠璃坂（新宿区）」となっておりましたが、正しくは「湯立坂（文京区）」でした。お詫びして訂正いたします。